

談天

DANTEN



渡邊 博美

一般社団法人東北経済連合会 副会長

トレジャーランド(宝の島)東北

ブラジルリオデジャネイロのオリンピック、パラリンピックが世界中に大きな感動を残して閉幕しました。健常者も障害者も人間の可能性が無限であることを示し、真摯な姿は私たちに身心の美しさを感じさせました。四年後の東京大会へスタートは切られました。復興五輪の名に恥じないものをオール東北で作っていかねばなりません。今、日本政府はインバウンド(外国人観光客)の目標を決めて官民を挙げて力を入れています。東京、大阪のゴールデンルートや北陸、九州、北海道などはそれぞれの特長を生かし観光客が激増しています。しかし、わが東北は残念ながら蚊帳の外です。やはり東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響が大きいのだと思います。

今年の8月後半に東北観光推進機構の企画で新潟を含む東北7県の知事と東北経済連合会、東北六県商工会議所連合会が台湾にトップセールスを実施しました。私も参加させていただきましたが大きな手応えを感じました。これからは県などの単位を超えて東北全体のネットワーク、広域連携が大切な課題となるのだと確信してきました。同じような企画を東南アジア各国そして欧米にも広げていく必要があるのではないのでしょうか。

9月の敬老の日に福島市民家園の旧広瀬座で、人間国宝の狂言師である野村万作さんの「ふくしま狂言会」が開かれました。福島市民家園は江戸時代から明治時代にかけて福島の県北地方の芝居小屋、商人宿、農家などを移築復原し当時の環境を再現しています。旧広瀬座は梁川町の芝居小屋でしたが、今も歌舞伎、寄席、芝居などを実演しています。二百人で満席になりますが、演者の姿、息づかいまで間近で見ることができます。八十五歳の人間国宝野村万作さんたちが全力で演じ汗まで見た観衆は感動に酔いしれました。遠くから来た人たちが「こんな素晴らしい施設で人間国宝の演技を堪能できびっくりしました。東北にはまだ文化的な資産が発掘されずにたくさんあると思います」と話されていました。地元の人が、そして東北の人が見直し日本中に発信し世界へも広げていくことがトレジャーランド(宝の島)東北の輝きを増していくことにつながります。昔、小学生の頃、親戚の住んでいた梁川町に初めて一人で旅をしたことを覚えています。春休みのことでしたが、電車とバスを乗り継ぎ、目的地に着いた時は満足感で一杯でした。最後の夜、梁川町の広瀬座に連れて行ってもらい楽しい思い出をつくってもらいました。笑顔があふれた芝居小屋が時と場所を越え、現代も輝いています。東北の宝物を発掘し、磨きをかけることが大切だと思います。

(福島県商工会議所連合会 会長・わたなべ ひろみ)